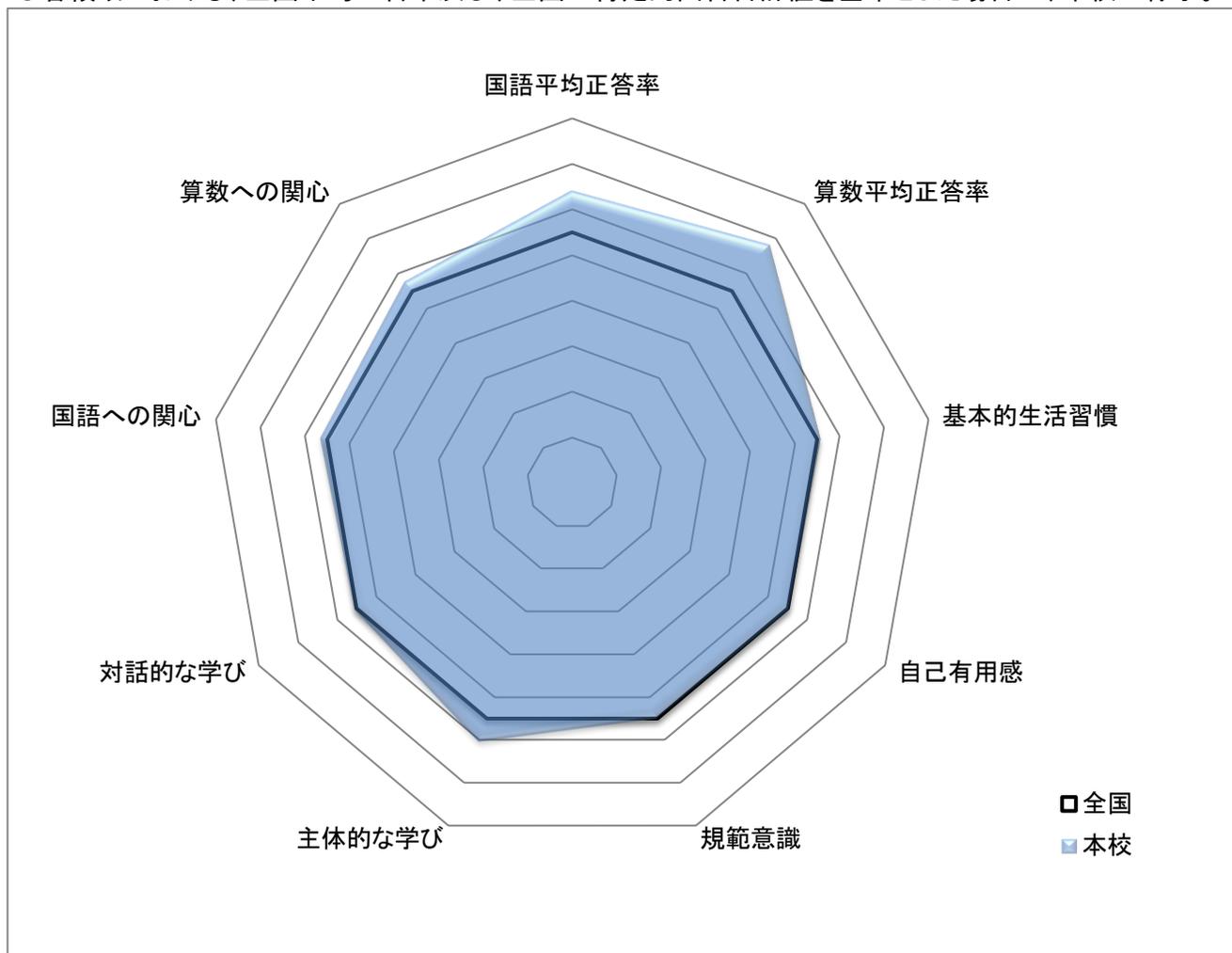


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は、どの領域においても平均値を超えている。しかし「書くこと」の領域における正答率が東京都の正答率より4ポイント上回る程度であった。加えて「競技」という漢字を書く問題において無回答率が13.2%と、全国が無回答率と同じであった。

一方で、「話すこと・聞くこと」の領域では東京都の正答率を14ポイント上回り、伝えるために必要な表現や内容を選択する力が身につけている。

算数は、どの領域においても平均値を超えており、特に「数と計算」「図形」の正答率は高く、無回答率も6.9%以内である。

全体の結果を見た中で課題と思われる領域は「変化と関係」である。特に、道のりと時間の関係を基に速さを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が49.7%と正答率が低かった。

《授業改善のポイント》

国語では、「書くこと」についての正答率が低かった。そのため、国語だけでなく、どの教科においても、自分の意見を伝えるために書く学習を積極的に取り入れる。また、目的や意図に応じた伝え方になっているかを友達と見せ合うことで身につけられるようにする。漢字の学習については、形や読み方、書き順の指導のみならず語句や用例、類義語や対義語等も併せて覚えられるよう発達段階に応じた指導を行っていく。

算数では、なぜその計算方法を使うべきなのかを友達に説明する場面を多く取り入れ、目的に合った処理の仕方を選択したり、その理由を説明したりする力を育てていく。また、公式を覚えるだけではなく、問題に生かせる活用力を高めるようにする。例えば、各単元において、既習の学習が日常で生かせる場面を見つけたり、応用問題を解いたりする時間を充実させたりする。

《チャートの特徴》

学力調査の結果では、国語・算数への関心とともに、全国平均を上回っている。また、平均正答率についても全国平均・都平均を上回った。

学習状況調査の結果では、いずれの項目においても全国平均・都平均を上回っているが、「基本的な生活習慣」「規範意識」、「自己有用感」の数値がやや低い傾向にある。「主体的な学び」は高い傾向にあり、自分から課題を見付け学習する力が身に付いており、国語・算数の平均正答率との関連も考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

ホームページや学校便り等で、全国学力・学習状況調査の結果を公表する。調査結果の個票を返却する際には、一人一人の課題を共有し、各家庭での取り組みや励ましへの参考としていく。また、規範意識の向上や生活習慣定着のために、保護者会や家庭学習週間の取り組みを通して協力をお願いしていく。